

# 光栄の森

平成24年4月 毎月1日発行 第46号

発行者 光栄プロテック 重延

## 4月新年度を迎えるにあたり

代表取締役 三田雅憲

今期も残すところあと1週間となりました。東日本大震災の被災地では、今もなお瓦礫の山が復興の妨げとなっていることや原発警戒区域の方々のやるせない思いを聞くにつれ、尋常ではない現実が心が痛み、早急な復興を願わずにはいられません。

今期は特に新しいお客様や長くお会いできていないお客様に会い、仕事につながればと外に出る機会を多くつくりました。その先方で、「ああ、本当にご無沙汰してしまった。」と思うことも多く、まめに歩くことの大切さをあらためて痛感いたしました。そして、実際にそのようにされている会社はどの会社も懸命に努力され信頼を得ていることを感じました。『信頼されること』はたいへん時間のかかることですが、『信頼を失うこと』はあっという間です。来期は光栄プロテックの社員一人一人が信頼されて行動できるよう努力してもらいたいと願っております。

二十代までは先輩の指示に従い仕事をしてきたと思いますが、三十代以降は自分自身でお客様にとってこれがベストだと判断し仕事のできる人間になってもらいたいと考えております。「なぜ、この会社にこの仕事が入り、仕上げを任されているのか」をよく考えて行動をとってもらいたい。「言われたことをするだけの仕事はそれまでである。自分で考え、うまい人のやり方や進め方を盗み、自分自身でやっていくことが大切であり、それこそが職人として必要なものだ。」と会長も常々おっしゃっておられます。自分が責任を取らない仕事をいくつ重ねても上達することはありません。自分の責任をしっかりと理解し、改善すべきところは改善し、よりベストな方法を絶えず考えていくことが問われています。

会長は「わしは来期からは非常勤でいくぞ。」といわれています。細かい取り繕い・調色・硫化・特殊仕上げのコアな部分をいつも会長がフォローしてくれていました。この仕事のバトンが誰に渡されるのか、我こそはという人に継承されることを願っています。また来期は各自の実力の底上げ・体調管理、設備においては清掃・油さし・道具の点検・工場内の整理整頓、今後の展開を見据えて皆が一枚岩となるための社員旅行(酒を酌み交わすことなく一枚岩はあり得ませんから)を考えております。

25周年にあたって皆で誓い合った5つの理念

1. 信頼感のある誠実な人間でありたい
2. 愚痴や泣き言を言わない、人のせいにしない人間でありたい
3. 相手の喜びや悲しみを共有できる人間でありたい
4. 笑顔で元気に挨拶のできる人間でありたい
5. 自分が正しいと考え決めたことは最後まであきらめずにやり通す人間でありたい



理想かもしれませんが、30周年には光栄プロテック社員は他の塗装会社とは少し違うねといってもらえるように共に努力しましょう。